



山形大学
Yamagata University

平成30年度の実績に係る 組織評価ヒアリング

鶴岡キャンパス

鶴岡キャンパス長 林田 光祐

年度目標① 一学科制のメリットを活かし、「グローバル」と「地域創生」を充実させた横断的プログラムを設ける3コース3プログラム制を平成31年度から実施する準備を進める。

達成状況① これまでの1学科6コース制の実績と課題を踏まえ、2年次で3コースへ配属し、3年次に横断的プログラムである「国際展開」と「地域創生」を含む3プログラムを段階的に選べる3コース3プログラム制に専門教育課程を再編して平成31年度入学者を募集した。

360° ひろがる農学のフィールドからオリジナルな農学を構築しよう

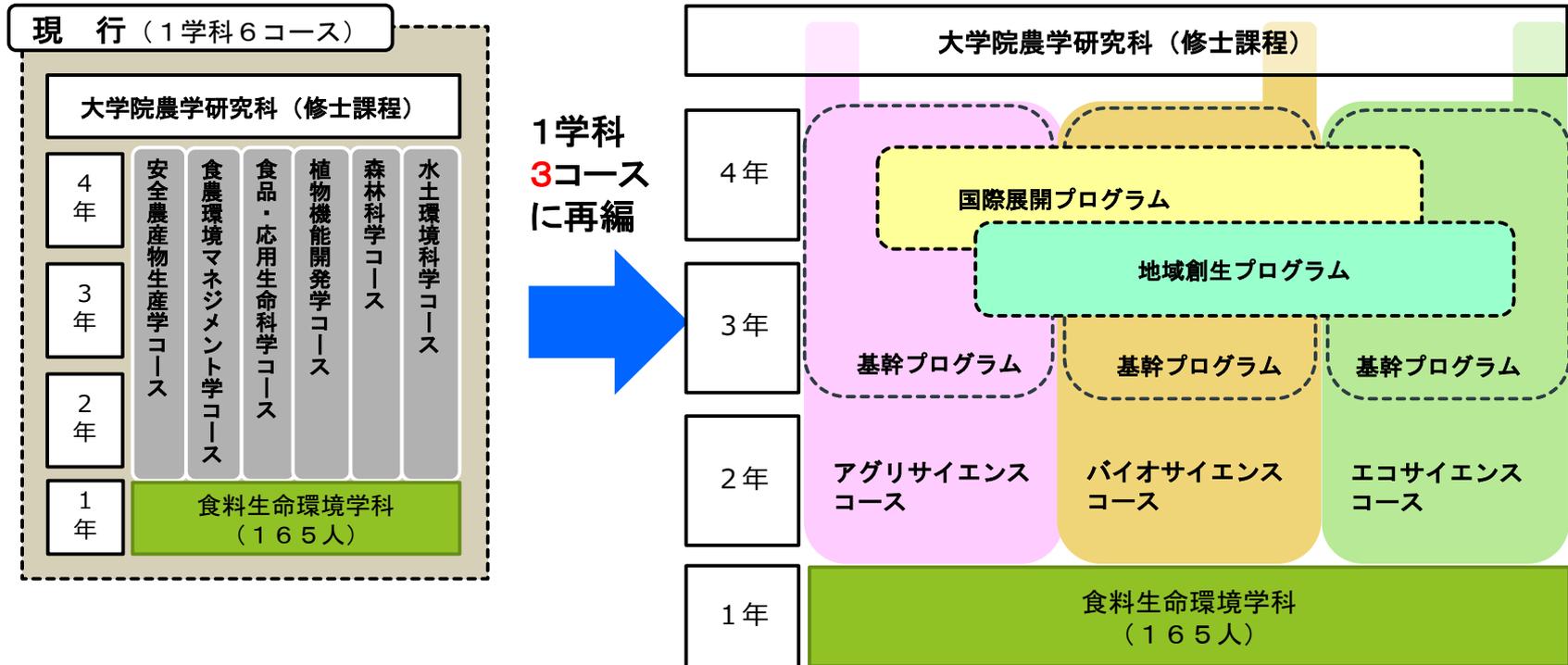
それを実現するための新しい教育システム～1学科3コース3プログラム制～

総合科学としての「農学」を重視した1学科制

2年進級時にコースを選択＝何を学ぶか？

3年進級時にプログラムを選択＝どこで活かすか？

1学科3コース3プログラム制の概要



●アグリサイエンスコース(上限60人)

安全な農畜産物を持続的かつ安定的に生産するための理論や技術を学ぶ。さらに、限られた資源(物的資源、人的資源)を有効に利用するためのマネジメントについて学ぶ。

●バイオサイエンスコース(上限60人)

植物や、微生物、高等動物など多様な生物を対象とし、これらがもつ生理機能の解明、有用機能の探索・改良など、広範囲の領域を基礎から応用まで学ぶ。

●エコサイエンスコース(上限60人)

農林業の基盤となる自然環境や生態系のメカニズム、機能を理解し、それらが産み出す恵みを享受しながら、将来に渡り持続可能な形で管理、保全するための理論や技術を学ぶ。

3年進級時に3プログラムの中からプログラムを選択(各コース共通)

基幹プログラム

アグリ、バイオ、エコの各コースについて、それぞれの課題を解決するための理論や技術を学び、サイエンスを指向する。

国際展開プログラム

語学力向上と、外国人留学生との交流を含めた演習、海外実習などを学び、グローバル化の進む日本社会の課題を解決するための国際的感覚を身につける。

地域創生プログラム

食や農を核とした地域振興のニーズにこたえるべく、地域の活性化とその好循環の維持の実現するための地域社会をマネジメントする方法を学ぶ。

年度目標② 外国人留学生の受入れを拡大するため、大学院の秋入学等の入試制度やカリキュラムの見直しを行い、ドイツ・ハノーヴァー大学とのダブル・ディグリープログラム(修士)を平成31年度10月入学から開始する準備を進める。

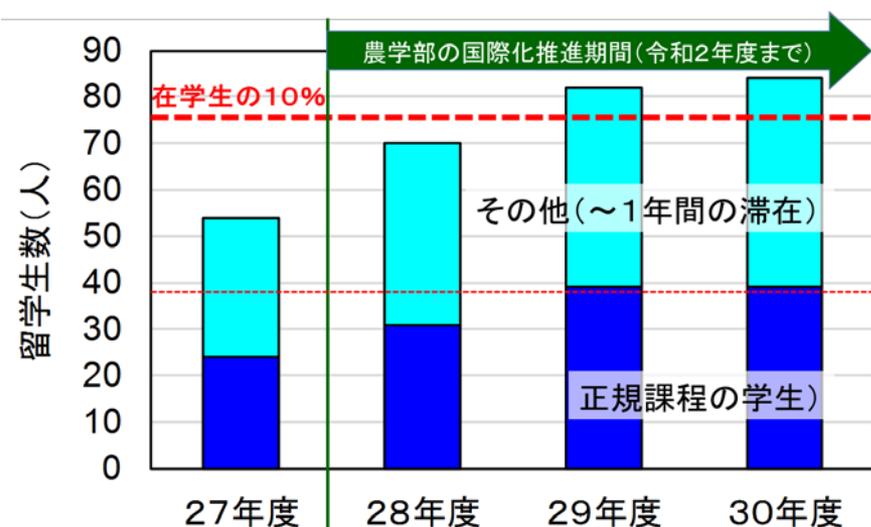
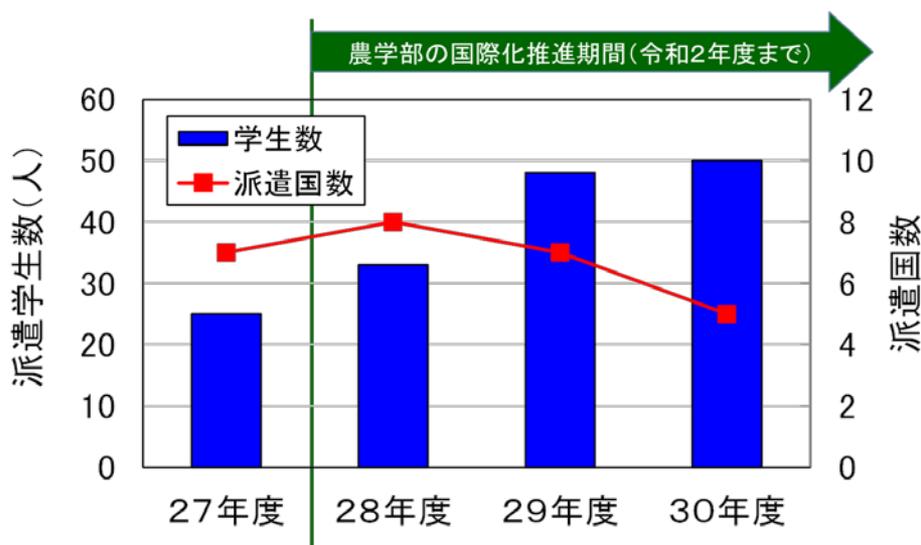
達成状況② 大学院の10月入学のための入試を開始した。
英語のみで修了できるカリキュラムを充実させ、それを利用した修了生を送り出した。
大学院の学生便覧の英語化を完了した。
ハノーヴァー大学とのダブル・ディグリープログラム(修士)に関する準備を進め、正式に平成31年度10月入学から開始できることとなった。

- ・ 平成30年10月に1名の大学院留学生が入学した。
- ・ 修士課程の英語による授業は現在66科目
- ・ グローバル食農環境論(英語のみで修了可能)を6名履修した。
- ・ ドイツ・ハノーヴァー大学での
複数学位制度協定締結
(平成30年9月)



平成30年度 農学部学生の国際交流(派遣・受入)事業の実績

- 派遣 41名 ドイツ・スペイン 12名、タイ 19名、インドネシア 10名、
- 受入 45名 ドイツ 17名、インドネシア 15名、ベトナム 5名、タイ 5名、中国 1名、韓国 1名、ペルー 1名



国際展開プログラムと連動して派遣前後の教育を充実させる
ダブル・ディグリー制度と連動して大学院留学生増へつなぐ

年度目標③

学部横断・分野横断型研究をさらに推進し、寄附講座をはじめとする外部資金の獲得額を過去3年平均値に比して10%増加させる。

達成状況③

「食」の学際的研究拠点形成に向けて、

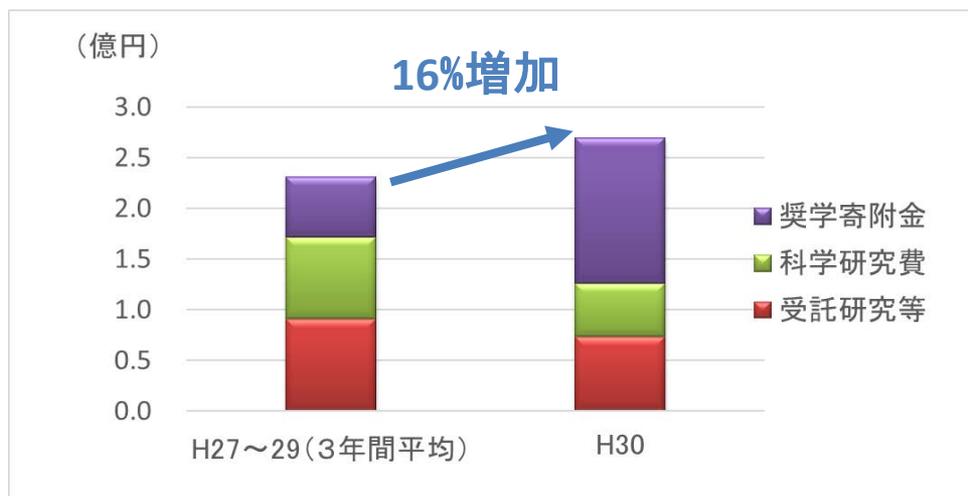
非晶性米粉の成分分析の研究に着手(工学部, 地域教育文化学部との連携)

ドライフーズのメタボローム解析ならびに動物試験などの共同研究を実施

(工学部とのJSTのCOIプログラム)

フレーバー分析用のGCMS等の機器を先端実験室に整備

平成30年度の外部資金獲得額は過去3年間(平成27~29年度)の平均値に比して16%増加した。



平成30年度 農学部の主な研究プロジェクトの実績

- 寄附講座「食料自給圏スマート・テロワール形成講座」(H28～)
耕畜連携・農工連携によるビジネスモデルを附属農場を中心に構築
山形大学ブランドのハム等の加工製品を地元スーパーで常時販売
今年度ビジネスモデルを実装する地域の推進組織を立ち上げる
- 寄附講座「アジアの水・食・健康リスク講座」(H29～)
持続可能な水や食料の循環を理解し、健康リスクを評価できる人材の育成
- YU-COE食の学際的研究拠点(H30～)
加工, 醸造, 流通, 安全, 食育といった複合領域で学際的に取り組む
香気成分を分析するGC-MSを設置



SDGsを実現する研究を中心に、エクステンション機能を有する研究拠点を形成し、地域の人材育成の拠点づくりを目指す。

年度目標④ HPやFacebookなどのSNSを活用し，高校生や保護者，高校教員などに情報提供を行う。Facebookは年間180回以上掲載する。また，記者懇談会を年に4回開催し，TV，新聞，HPなどのメディアから農学部の教育・研究・地域貢献を発信願い，過去3年間の県内出身者の入学志願者数の平均値を前年度より10%増加させる。

達成状況④ Facebookでの発信は年間189回となり，目標値を上回った。記者懇談会は4回開催し，うち3回はメディアに取り上げられ，TVでの放送もされた。HPでは新たに研究・論文紹介コーナーを設け，研究面でのPR強化を開始した。平成31年度の過去3年間の県内出身者の入学志願者数の平均値は77.3人となり，目標値に1.6ポイント届かなかったが，平成30年度より8.4%増えた。

| | H28年度 | H29年度 | H30年度 |
|-------------|-------|-------|-------|
| 新聞等への掲載件数 | 196件 | 227件 | 216件 |
| 県内出身の入学者数割合 | 11% | 21% | 20% |

 県内出身の入学者数を25%にあげる